

# 「運転者の健康管理を促進しましょう！」の アンケート結果について

---

栃木県事業用自動車安全推進会議各分科会とりまとめ  
平成30年12月

## はじめに

栃木運輸支局では、栃木県内における事業用自動車の事故件数削減のため、関係機関と共に「栃木県事業用自動車安全推進会議」を設置し、安全対策を推進しております。平成29年度においては、バス協会、タクシー協会、トラック協会とその会員の皆様のご協力のもと「健康起因事故対策」について取りまとめ、「**運転者の健康管理を促進しましょう！**」を公表いたしました。

今年度は、「**運転者の健康管理を促進しましょう！**」についてアンケートを取らせていただきましたので、その結果についてご紹介いたします。健康起因事故防止のため、業務の参考にさせていただけたら幸いです。

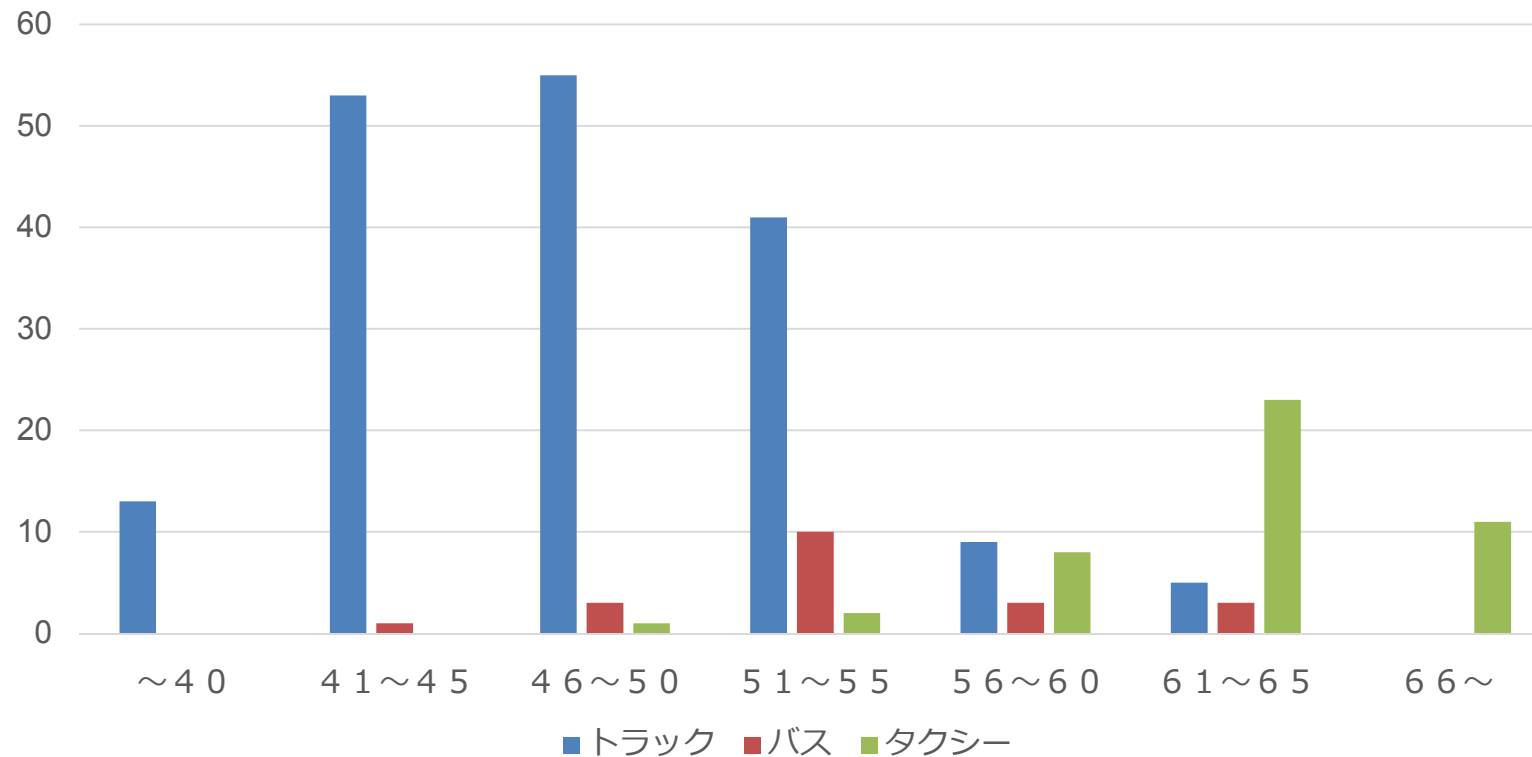
また、アンケート等ご協力いただきまして、心より感謝申し上げます。

### 目次

1. アンケート結果による事故の発生状況について
2. 課題
3. 各社の健康起因事故対策
4. 提案
5. 意見等

# 1. アンケート結果による事故の発生状況について

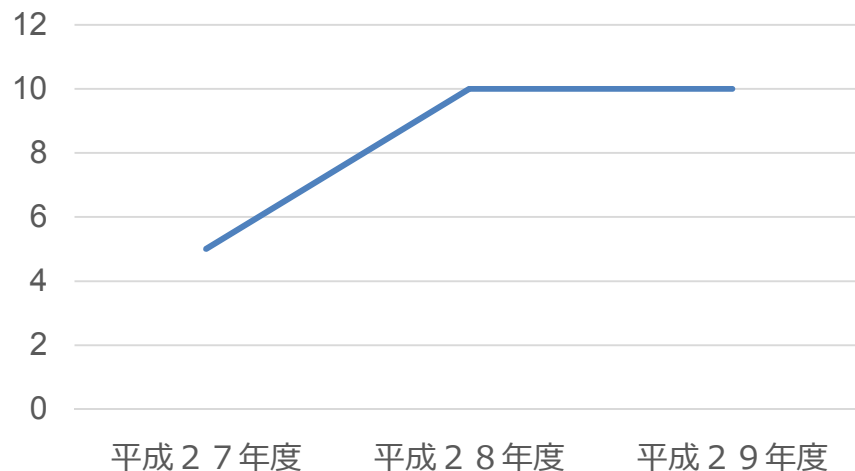
## アンケート回答事業者の業態別運転手平均年齢



アンケートの回答数はそれぞれ、トラック181、バス20、タクシー46の事業者数となります。  
全国の運転手の平均年齢は、トラック47.5歳、バス49.9歳、タクシー58.7歳です。  
(平成29年度交通政策白書より)

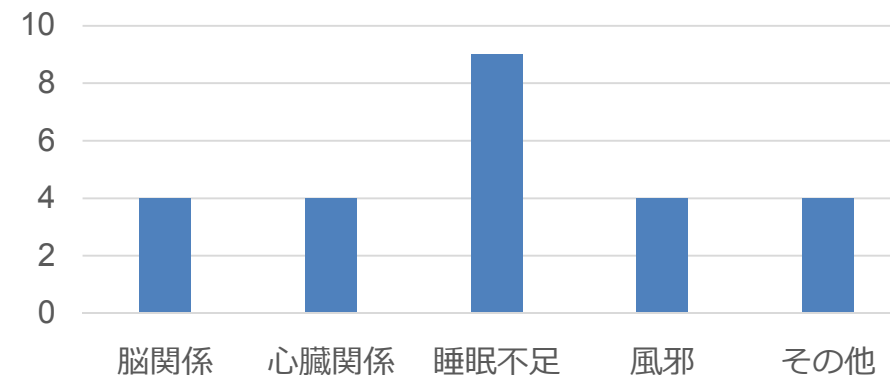
# 1. アンケート結果による事故の発生状況について

## 年度別健康起因事故発生件数

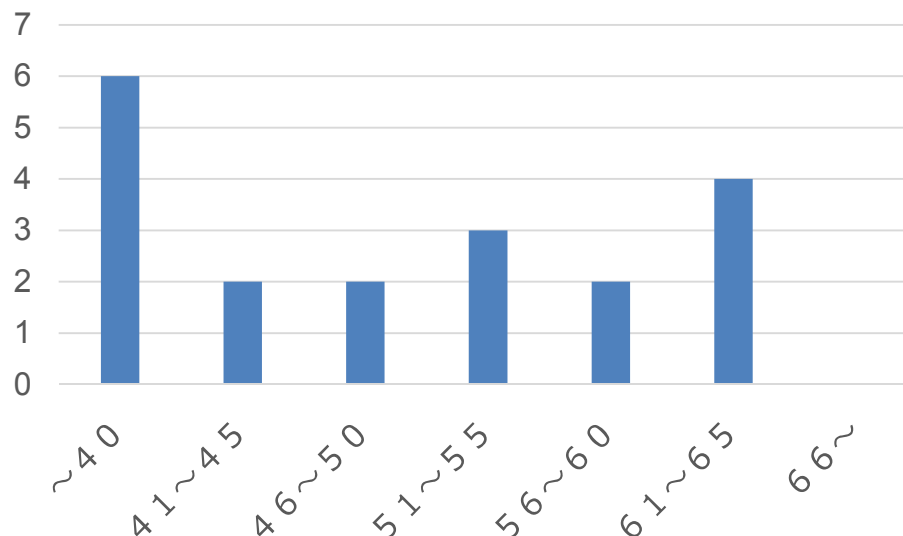


## 平成27年度から平成29年度

## までの健康起因事故発生件数



## 年齢別事故惹起者数



40歳以下の事故が目立つように見受けられますが、睡眠不足や風邪薬による眠気が原因のものが多く、年齢や業態によって特色のある事故は、アンケート結果からは見受けられませんでした。

その他については4件あり、脱水症状によるもの、熱中症によるもの、がん治療薬の眠気によるもの、血糖値による視力低下が原因のものとなります。

※グラフは有効回答数によるもので合計数は一致しません。

◎健康起因事故について、次のような課題が見受けられました。

### 課題 1

- ・事故の原因が健康起因によるものかどうかの判別がつかない
- ・同じ人が同様の事故を起こす



健康起因事故かどうかの特定のためには、以下のような方法が考えられます。

- ・検査等（SAS,脳ドッグなど）を受ける
- ・医師の診断を受ける
- ・ドライブレコーダーで前後の状況を見る
- ・添乗で普段の運転状況を確認する

- ◆事故原因を特定することは、健康起因事故のみならず、事故防止において重要です。
- ◆運転手、道路環境や天候、車両の状態、運行管理状況など、多角的に事故要因を抜き出し、原因を突き止めましょう。また、原因へ至るまでの背景を考えましょう。
- ◆運転手への教育が必要な場合は、運転手が自ら原因を考えるように促しましょう。

### 課題 2

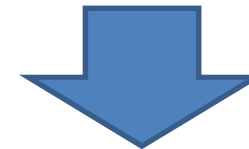
- ・服薬で運転に影響がでる



- ・副作用を把握し、適切な配車、運行指示を行いましょう。
- ・持病がある場合は、服薬の有無で運転にどのような影響があるか把握し、点呼時に確認しましょう。

### 課題 3

- ・心臓や脳に関わる病気は血圧の影響を受けるものがある



- ・血圧計を設置し、血圧の推移について注視すると良いでしょう。
- ・高血圧の方に対しては、点呼時に特に注意し、頭痛、めまい、圧迫感、言語障害等チェックしましょう。

- ◆睡眠不足を含め、生活習慣や家庭環境が影響する場合があります。
- ◆本格的に健康状態が悪くならないと病院へ行かない運転手がいるようです。他にも、環境を整えても利用しない方が多いと意見があったため、『健康管理の重要性』について十分に指導しましょう。

◎健康起因事故対策については、各社様々な取り組みが見受けられました。  
その一部を抜粋し、紹介します。

健康チェックシート  
を作成し、点呼時に  
確認している。

運転者用の健康  
チェックシートを作  
成し、点呼時に記載  
してもらっている。

健康についての雑誌記  
事をコピーして、運転  
者に配布している。

拘束時間を減ら  
すために、シフ  
トを見直した。

◎ アンケートでいただいた提案について、紹介します。

定期的な運転者に健康チェックを行ってもらうと良い。

厚生労働省のホームページ『e-ヘルスネット』に、健康チェックのためのリンクなどがあります。

血管年齢を測定すると良い。

血管年齢が若いと、心筋梗塞の予防が期待できます。

運転者が体調不良時に安全に停止できるよう、技術を発展させていくと良い。

国土交通省では、運転者の状態を感知し、路肩に退避させるなどの技術について、ガイドラインを策定するなど、先進技術の普及に努めております。

休憩時は営業所へ戻ってもらう。(タクシー)

体調を、随時把握できます。

トレーニング場  
所を提供する。

社内環境を整えるた  
めのチェックシート  
を作成する。

乗務中の休憩  
時間の確保



◎ その他、ご意見等について紹介します。

若手ドライバーの雇用  
対策をしてほしい。

政府を挙げて検討中です。特に、女性  
ドライバーの定着を図っております。

健康起因事故防止対策についての、  
具体的な事例の資料がほしい。

国土交通省のホームページ『自動車総合安  
全情報』のグッドプラクティスにて、各社  
の事故対策事例を掲載しております。

熱中症予防のために、さ  
らなる対策はないか。

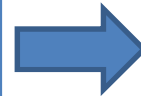
厚生労働省にて、熱中症予防のための  
キャンペーンを実施することがありま  
す。チェックすると良いでしょう。

SASの治療方法がわからない。  
日曜日に利用可能な病院がわか  
らない。

インターネットで検索すると良いで  
しょう。SASの治療については、  
CPAPを用いたもの等あります。  
(医師の診断が必要です)

※CPAP…睡眠中に機械によって圧縮した空気を送り込み、気道を確保する治療法

腰痛防止セミナーを  
開催してほしい。



厚生労働省の委託事業や、産業保険総合支援センターにて、セミナーを行うことがあるようです。チェックしましょう。また、同省の「職場における腰痛予防対策指針及び解説」が参考になるでしょう。

集団実施など工夫して、各検査等の補助金を出してほしい。

若年性認知症検査を、義務づけてほしい。

除菌シートなどの対策用品を配布してほしい。

### 最後に

依然として、健康起因が疑われる事故が後を絶たない状況です。運転者個人のみでなく、会社としての対応が急務となります。健康管理体制の確立に努めましょう。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。